

## 第10回日本臨床検査学教育学会学術大会を終えて

奥村 伸生\*

さて、この度、平成27年8月19日から21日、信州大学にて開催いたしました第10回日本臨床検査学教育学会学術大会におきましては、格別のご指導とご支援を賜りまして誠に有難うございました。無事盛会裡に滞りなく終了することができましたが、これもひとえに参加者の皆様方、そして関係者の皆様方の格別なご指導とご支援の賜物と心より御礼申し上げます。

お陰様で会員校などから355名の参加(教員283名、学生60名、一般他12名)と信州大学の教員11名、学生6名の計372名に参加していただきました。また、信州大学の学部生・大学院生46名が大会の運営を支えてくれました。これらを合計すると419名になりました。夏休み中とはいえ、地域保健推進センターと保健学科の講義室を使用して参加者300名以上の学会を運営することができるのか不安がありました。何とか無事終了することができました。なお、学術大会の運営にあたりましては、行き届かぬ点多々ありましたことと存じますが、何卒ご容赦をお願い申し上げます。

さて、節目になる第10回日本臨床検査学教育学会学術大会のテーマは「輝く臨床検査技師を育成するために－教育目標と課題－」でした。このテーマに合わせて以下のようなプログラムを実施いたしました。

第1日目は、2期目の日本臨床検査学教育協議会理事長に就任された戸塚 実先生による「我が



写真1 基調講演

国の臨床検査技師教育の課題」という基調講演にはじまりました(写真1)。そのあと、将来の臨床検査技師教育の方向性を示すための教育講演を4題行いました。第1題は「臨床検査技師の卒前教育におけるRCPCの活用」(信州大学 本田孝行先生)、第2題は修士課程教育における「臨床培養士養成課程の開設」について(山口大学 野島順三先生)、第3題は3年制専門学校の種類々の教育努力について(北里大学保健衛生専門学院 木村 明先生)、第4題は「チーム医療の実践例としての青少年の生活習慣病予防医療への取り組み」(信州大学 本郷 実先生)でした。

第2日目は、一般演題のほか教員研修会として、「臨床検査技師による検体採取～実現までの経緯」(宮島喜文 日臨技会長)、さらに「臨床検

\*信州大学学術研究院保健学系病因・病態検査学領域 nobuoku@shinshu-u.ac.jp

査技師の業務拡大ともなう学内講義と実習について」(帝京大学 加賀 宏先生)として研修を行いました。同時開催として、学生対象の「信州大学方式の RCPC 講義」を信州大学病院臨床検査部菅野光俊技師長に実施していただきました。これには、数名の教員の方々も出席していました。そのあとは、科目別分科会として、大会長提案の「学内実習のコア実習項目」について熱心に議論していただきました。

第3日目は、「臨地実習前の OSCE」というシンポジウムと特別講演「アミロイド線維の伝搬とアミロイドーシスの発症」(信州大学 樋口京一先生)を行いました。シンポジウムでは、臨地実習前の OSCE を実践している川崎医療短期大学と藤田保健衛生大学の例を提示していただき、臨地実習としては、信州大学病院臨床検査部の生化学・免疫血清検査と相澤健康センターでの腹部超音波検査の実際の実習について紹介していただきました(写真2)。

以上、本学術大会に参加いただいた方々におかれましては、大会長・信州大学医学部保健学科・信州大学医学部附属病院臨床検査部をはじめとする臨地実習関係施設の臨床検査技師教育に対する目標と実践の一端をご理解いただけたのではない



写真2 シンポジウム

かと自負しております。これらが、参加いただいた先生方・学生さんの、今後の教育と研究に少しでも参考になれば幸いです。残念ながら学術大会の全プログラムに参加いただいた先生方は少なかったと思います。臨床検査学教育の本学術大会特集号をじっくり読んで理解していただくことを期待しております。

最後になりますが、交通の便の悪い松本での大会に大勢の会員校の先生方にご参加いただきましたことに、信州大学の教員を代表して御礼申し上げます。